

平成30年度 業務棚卸評価シート

| | | | |
|----------|-------------------|--------|----------|
| No. | 30 | 担当部課名称 | 福祉部障害福祉課 |
| 事務事業名 | 店舗活用型就労支援事業 | | |
| 見直しのタイトル | 事業内容と今後の在り方について検討 | | |
| 添付資料 有無 | 無 | | |

1 現状における課題

【現状】

・障害者の地域社会での自立と社会参加及び市民並びに事業主等の就労に関する理解と協力を推進するため、平成22年度より10年間継続することを目標に実施している。22年8月に「カフェサザンポ」、24年11月に「カフェさぶれ」、28年1月に「カフェドットコム」を開設してきた。各店舗は、スタッフと障害のある訓練生が対応し、乳幼児から高齢者まで男女を問わず多くの方が来店し、29年度末現在、3店舗の年間利用者数は約30,000人と好評である。

【課題】

・これまで、障害者総合支援法の施行、障害者権利条約の批准、障害者差別解消法の施行など、障害者福祉を取り巻く状況は大きく変化している。このような状況のなか、事業開始当時は、市内に就労訓練できる施設は少なかったが、現在は、市内に障害者就労支援施設が17ヶ所となり、就労できる障害者も増加してきた。一方で、就労定着支援が全国的な課題となっている。
・社会情勢の変化を勘案し、当該事業内容を見直していくとともに、障害福祉施策において必要な事業展開を含め検討していく必要がある。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

【趣旨】

・各店舗の役割を再検討し、事業内容と今後の在り方を見直す。
対象は、「カフェさぶれ」「カフェサザンポ」

【具体的内容】

・委託先である「NPO法人茅ヶ崎市障害者施設連絡会」と協議を行い、事業の方向性を確定させる。
・事業の方向性が確定した段階で、関係機関や地域の方々等との協議・調整を実施。
・障害者保健福祉計画に基づき、必要な事業実施に活用できるか検討する。

3 改善により期待できる効果

【全体】

・「カフェさぶれ」の運営主体を見直すことによる委託料の削減
・「カフェサザンポ」事業内容や在り方を見直すことによる委託料の削減
・小規模修繕や消耗品故障・買い換えに伴う事務の削減

4 実施スケジュール（概要）

6～9月 NPO法人茅ヶ崎市施設連絡会と事業の方向性について検討を行う

10～3月 関係機関や地域の方々等と協議を行う

5 実施結果の振り返り

「カフェさぶれ」「カフェサザンポ」の事業内容と在り方を見直すため、平成29年度から30年度にかけて、委託先である「NPO法人茅ヶ崎市障害者施設連絡会（以下「連絡会」という。）」と障害福祉課、及び市民自治推進課と障害福祉課と複数回にわたり協議を行った。

30年7月に、連絡会より「平成22年度より当該事業を行う中で、市民への理解促進につながった。また市内外に障害者就労支援施設も増えてきているため、当該事業は転換期にきており、連絡会としては一定の役割を終えたと考えている。」との意見を受け、31年2月に「カフェさぶれ」の店舗の撤退をしたいとの申し出があった。

その後、市民自治推進課と地域において「カフェさぶれ」のスペースを、今後どう活用するかを検討するという方向性が示された。

令和元年度に障害福祉課と連絡会において具体的なスケジュールを決定していくとともに、市民自治推進課と連携を図り進めていく。